

台湾へのラブレター

麗澤大学
日本語・日本文化専攻3年
遠藤 万由

正直に告白します。
私は、台湾に恋をしました。

台湾に行くまで、私は台湾のことをよく知りませんでしたし、興味もあまりありませんでした。2年前に日本で地震が起きた時、一番早く助けてくれたのは台湾だったのに、恥ずかしいですね。でも、今回屏東へ行って、台湾の魅力を全身で感じることができました。今回の目的は日本語教育でしたが、私が教えた日本語よりも、みなさんから学んだことのほうがずっと多いと思います。そして、みなさんが私の初めての学生でなければ、今回の日本語の授業は失敗したと思います。みなさんが助けてくれたから、私が日本語の授業をできたのだと思っています。台湾の気候があたたかいように、みなさんの心もとてもあたたかかったです。中国語も英語もできない私が一か月も台湾で生活できたのは、みなさんが一生懸命私とコミュニケーションを取ろうとしてくれたからです。あそびに行くたびにリュックに「みんなの日本語」が入っていたときは、びっくりした反面、とても嬉しかったです。私と話そうとしなければ、教科書だっていらないでしょう？

一緒にごはんを食べたり、あそびに行ったり、夜市に行ったり、トランプをしたり、映画を見に行ったり。みなさんはたくさんの思い出を私にくれました。特別なことをしなくても、みなさんが「まゆさん、まゆさん」言いながらにここに話しかけてくれることが、私にはとてもうれしかったです。そんなみなさんが、私の宝物になりました。

私は、前から「人と別れるときは泣かない」と決めています。だから、中学校や高校の卒業式でも泣きませんでしたし、韓国から帰るときも泣きませんでした。台湾でも、泣くつもりはありませんでした。が！みなさんが私たちのために送別会を開いてくれたり、手紙をくれたりして、泣かないことはできませんでした。私たちが泣いていても、みなさんはいつもと同じ、にこにこ笑って、とても元気で……。台湾に来てよかったと、心から思いました。

日本や韓国での生活はとても忙しく、心に余裕がなく、とても疲れていました。そんな私のからっぽになった心に、みなさんが、たくさんの元気と優しさ

をお土産に詰めてくれました。日本に帰ってきてからも、みなさんのことをよく考えています。カレンダーと通帳とにらめっこしながら、次はいつ台湾に行けそうか考えています。こんなことをしているということは、やっぱり私はみなさんに恋しているんですね。

私の心を盗んだ屏東のみなさんへ。

給台灣的情書

麗澤大學
日語・日本文化組 3 年級
遠藤 萬由

我要誠實的告白。
我，愛上台灣了。

在到台灣之前，我對於台灣的事情一無所知，也沒什麼興趣。但兩年前日本發生地震時，率先幫助我們的卻是台灣，這使我感到很羞愧。此次到屏東，我深深地感受到了台灣的魅力。雖然這次的目的是日語教學實習，但是比起我教給大家的日語，我覺得我從大家身上學到了更多東西。還有，如果大家不是第一次上我的課的話，我想此次的教學實習是算失敗的。因為有大家的幫忙，所以我才得以順利完成實習。大家的心就跟台灣的天氣一樣的溫暖。中、英文都不會的我，之所以可以順利的在台灣生活一個月，都是多虧大家很努力的在想辦法跟我交流。每次出遊的時候，看到大家背包中都帶著『大家的日本語』時，我雖然很驚訝，但是也很開心。如果不是為了要跟我聊天的話，應該也不需要帶教科書吧？

一起吃飯、一起去玩、一起逛夜市、一起玩牌、一起去看電影等等，大家給了我很多的回憶。雖然不用特別做什麼，但是大家邊叫著我的名字「萬由、萬由」，然後笑咪咪的來和我聊天，讓我感到非常高興。這樣的大家，成了我珍貴的寶藏。

我從以前就下定決心不會在跟別人道別時掉下眼淚。所以即使是國高中的畢業典禮，或是要從韓國回國時我也沒有哭過。這次在台灣，我也不打算哭著道別。可是，大家為我們舉辦送別會，還寫了信給我，讓我無法克制不流淚。雖然我們哭了，但是大家就跟平常一樣微笑著，仍然十分的有朝氣。我真心的覺得自己很慶幸來到台灣。

在日本和韓國的生活非常的忙碌，一點餘裕都沒有，非常的疲憊。這裏大家給了我很多朝氣和體貼當做紀念品，填滿了我心裡的空洞。即使回到了日本，我仍時常想念著大家。一邊盯著月曆和存摺看，一邊想著下次什麼時候還能去台灣。會這樣子做應該就是表示我愛上大家了吧。

給偷走我的心的屏東的各位